

小学校 第1学年 生活科 学習指導案

北海道教育大学附属札幌小学校
教諭 中嶋 孝幸

単元名 きれいに さいてね わたしの はな（10 時間）

単元のねらい アサガオなどの植物を育てる活動を通して、植物が育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、育てている植物に合った世話の仕方や、植物が自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気づき、植物への親しみをもち、大切にできるようにする。

本時のねらい 開花への願いをもって種を観察し、種の特徴に気づき、自分で栽培準備や種まきができるようにする。

指導時期 5月～3月

指導者用デジタル教材活用の意図・目的

栽培単元では、植物を育てていく中で思いや願いを高めながら働きかけ、生命の大切さや成長の喜びに気付いていくことが大切である。そのためには、実際に自分で種をまき、毎日の様子に関心をもちながら水やりをするなど、直接対象と触れ合うことが欠かせない。しかし、ただ日々のお世話をしていくだけでは、生活科の学びとしての気づきの質は高まってははいかない。そこで、どのようなところに着目するとよいかという視点や、比較・関連付けなどの考え方を引き出すために教科書の活用が有効である。その際、ただ教科書を眺めさせるのではなく、意図的に一部を拡大して見せたり、比較できるように提示したりするには、「指導者用デジタル教材」の活用が有効だと考えた。

また、追究が進むにつれて、子どもが実際に観察することが難しい、芽が出る様子やつぼみが開いたり閉じたりする様子などは、学びリンクの動画を活用することで、点でしか捉えられない観察を線で捉えられるようにすることができると考えた。子どもの観察と観察の間に起こっていることを「指導者用デジタル教材」で補完することで、気づきの質や、「もっと〇〇したい」という子どもの思いや願いを高めることができるようになると思う。

本時（第2、3時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 - アサガオの種を見せ、形や色、特徴についての気づきを引き出す。 - T：アサガオの種は、どんな感じかな。 - C：色は黒いよ。 - C：ちょっと茶色いところもあるよ。 - C：上がとんがっているよ。	 教科書 p.26 のアサガオの種の写真を電子黒板で拡大提示する。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	◎：栗みたいな形をしているね。 ●他の植物の種と比べて、共通点や違いを見つける。 ■：他の種と比べるとどうかな。 ◎：マリーゴールドは細くてマッチみたいだよ。 ◎：ヒマワリは模様があって、アーモンドみたいな形だね。 ◎：同じ花の種でも、よく見ると一つ一つ形や色が違うよ。 ◎：種はそれぞれ色や形が違うんだね。	●何かに見立てた子どもの声が出てきたときに、教科書 p.27「ひんと」の「むすびつける」を提示し、見立てたり、関連付けたりして考えることを価値付け、そのよさを広げる。 ●教科書 p.26 のさまざまな種の写真を1つずつ拡大して提示する。少しずつらしながら見せ、何の植物の種かを問いながらクイズ形式で提示していくことで、子どもの期待感を高めたり、アサガオとの違いに目を向けたりできるようにする。 
展開	●実際に種を手にとって観察する。 ■：わたしのたねさんを観察しよう。 色 ◎：黒と茶色のところがあるよ。 ◎：わたしのは真っ黒だよ。 ◎：白とか黄色も入っているよ。 形 ◎：クジラみたいだね。 ◎：ごつごつしていて強そうだよ。 ◎：友達のたねさんよりも先がとがっているよ。 ■：たねさんの声は聞こえるかな。 ◎：早く種まきしてほしいよと言っているよ。 ◎：素敵な花にしたいねと言っていたよ。 ◎：大事に育ててねって言われたよ。 ■：たねさんも、種まきしてもらおうのを楽しみにしているんだね。	●教科書 p.27「ひんと」を提示しておき、観察しながら手触りやにおいなどに着目している子どもの考えを取り上げ、色や形だけではなく特徴にも目を向けられるようにする。  ●「たねさんの声」には、子どもが種に対して感じている情意が表れる。「大切に育てたい」「早く種まきしたい」「どう種をまいたらよいのか緊張する」などといった情意を引き出したところで、教科書 p.27 の「たねのまきかた」のスライドを提示し、種のまき方を確認する。  1 ふくろを しっかり もって つちをいれる。 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
まとめ	● たねさんへの手紙を書くことで、学習を振り返る。 ■ T：たねさんにお手紙を書こう。 ● C：大切に育てるよ。 ● C：たねさんと会えてうれしかったよ。 ● C：早く芽を出してね。 ● C：アサガオさん、きれいに咲いてね。	

指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

1年生の初めの時期に、子ども一人一人が教科書を開き、一斉に指導していくということは発達段階から難しい面がある。そこで、「指導者用デジタル教材」を活用し、注目させたい資料を絞って提示することで、子どもが同じ資料に注目できるようにすることが一斉指導においては効果的である。

本時では、さまざまな花の種の写真を大きく投影して順に提示し、その違いに着目できるようにすることで、観察する際に土台となる形や色などの「着目する視点」を共有できるようにした。これによって子どもは、実際に種を観察する際にこれらの視点を生かしながら、どの子もスムーズに観察に取り組むことができた。

また、ただ種を配付して「観察してみよう」と投げかけるのではなく、こうして「指導者用デジタル教材」によって子どもたちの興味・関心を引き出していくことは、「本物の種を見てみたい」という思いを高めることにもつながる。思いが高まったところで実際に種を手渡すことで、種との出会いが特別なものになったり、向き合い方が真剣になったりする。このように、具体的な活動や体験を充実させるために「指導者用デジタル教材」を活用し、子どもの思いや願いを高めたり、安心して活動に取り組めるようにしたりすることが大切である。